

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Variety of Responsive Interjections Observed in the Monitor Version of the Corpus of Everyday Japanese Conversation

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柏野, 和佳子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002589

『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現

柏野 和佳子（国立国語研究所音声言語研究領域）*

Variety of Responsive Interjections Observed in the Monitor Version of the *Corpus of Everyday Japanese Conversation*

Wakako Kashino (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

要旨

会話中には、相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現が多用される。本稿ではこれを「応答表現」と呼ぶ。頻出するのは、「うん」「はい」「ああ」などの感動詞と呼ばれる語である。従来、応答表現は、感動詞、あるいは応答詞と呼ばれるものを中心に議論されてきた。森山(1989, 2015)や吉田他(2009)は、応答表現として感動詞や応答詞だけでなく、それ以外の語も積極的に取り上げているが、そのように感動詞や応答詞以外の応答表現に着目して論じた研究はまだ少ない。そこで、『日本語日常会話コーパス』モニター公開版を用いて、応答表現として用いられる感動詞や、それ以外の語句を明らかにするために調査を進めている。本稿では感動詞と、いわゆる文末表現が応答表現として用いられる語句について報告する。その中には、先行研究ではあげていなかったような最近のものと思われる用例も得られたことをあわせて報告する。

1. はじめに

本稿では、相手の発話に応じ、何らかの反応を返す表現を「応答表現」と呼ぶ。それだけで一文を形成したり、文頭に発せられたりする短い表現である。応答表現で頻出するのは、「うん」「はい」「ああ」などのいわゆる感動詞と呼ばれる語である。ほかにも「ですよ」「だろうね」などのいわゆる文末表現や、「いいね」「さすが」「すごい」など感動詞以外の品詞の語句が応答表現として用いられることも少なくない。そこで、日常会話に実際に出現している応答表現を明らかにするために、『日本語日常会話コーパス』モニター公開版（小磯ほか 2019, 以降, CEJC モニター版と呼ぶ）のオンライン検索システム『中納言』版や、全文検索システム『ひまわり』/『日本語日常会話コーパス』モニター公開版を用いて調査を進めている。本稿では、感動詞と、冒頭に現れるいわゆる文末表現の調査結果を報告する。

2. 応答表現とは

2. 1 感動詞・応答詞

応答表現の語を指す品詞として、主に、「感動詞」や「応答詞」が用いられる。学校文法で用いられている品詞は「感動詞」である。オンライン検索システム『中納言』で公開されている CEJC モニター版には、収録した音声を転記したテキストに対して UniDic（小木曾・中村 2014）で解析された短単位の形態論情報（小椋ほか 2011）が付与され納められている。ここで付与される形態論情報には、学校文法同様に「感動詞」のみが用いられている。この「感動詞」の範囲は次の表 1 のように規定されている。

* waka@ninjal.ac.jp

表1 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第4版(下)』による
「感動詞」の範囲(小椋ほか2011, p.121)

(1) 感動や驚きなどを表すもの
【例】おや まあ えっ
なお, 笑い声は感動詞, 泣き声は副詞(擬音語)とする。
【例】あはは えへへ …… 感動詞
えーん わーん …… 副詞
(2) 呼び掛けを表すもの
【例】おい こら もし
(3) 応答を表すもの
【例】はい ええ うん
(4) 誘い掛けに用いるもの
【例】さあ
(5) 掛け声
【例】よいしょ それ
(6) あいさつに用いる語のうち, 最小単位認定規程で1最小単位となるもの
【例】こんにちは こんばんは さようなら おはよう
(7) フィラー
【例】あの えっと えー んー
上記のうち, (1) から (6) までの品詞を「感動詞-一般」, (7) を「感動詞-フィラー」とする。

表1の規定により, CEJC モニター版では, 「うん」「はい」「ああ」などには, 「感動詞-一般」の品詞が付与されている。「あ」や「え」などのように, フィラーと判断されるものとそうでないものとがある語には, それに応じて「感動詞-一般」か「感動詞-フィラー」の品詞が付与されている。

表1の(3)の「応答」は主に肯定の返答を指すものであり, 本稿でいう応答表現よりは狭い。本稿で応答表現とするものは, (3)に加え, (1)の一部も入る。「応答詞」という品詞は, この(3)に分類されるものを特に取り上げ指し示すものとして用いられることが多い(沖1993, など)。

田窪・金水(1997)では, 「感動詞・応答詞の類」として扱うことで, 「応答詞」の指す範囲は広い。表1と比較すると, (6)は取り上げず, 表1の(7)を「言い淀み系」として分け, それ以外を「入出力制御系」として扱っている。

2.2 あいづち

応答表現を指す語に, 「あいづち」というものもある。もともと「調子を合わせる」という意味を持つ語であるため, 狭義では同感, 同意のみを指す。森山(2015)では「?うん。」という応答の説明に「聞き取りの表示(あいづち)としての用法」という用い方をしており, この場合の「あいづち」も狭義の意味で用いられている。しかし, 堀口(1988), 大浜(2002), 吉田他(2009)などのように, 応答表現全般を広く指す語として用いられる場合もある。

堀口(1988)は「あいづち」の機能を「聞いている, 理解, 同意, 否定, 感情表出」の5つ

に、形態を「相づち詞、繰り返し、言い換え」の3つに分けている。「相づち詞」について、「「ハイ」は感動詞、「ナルホド」は副詞というように、「いわゆる相づち」にはいろいろな品詞が含まれるが、これらは一つの枠に入れた方が扱いやすい」と、感動詞だけではないことを明確に述べている。また、「言い換え」のところで「ムードを表す二次的形式」として「ダロウ」や「デショウ」などが「相づち」で用いられるものであることを言及している。

大浜 (2002)は、感動詞以外の「相づち」を「概念的表現の相づち(意味内容のあるもの)」として分け、その下位に「そう系、すごい系、本当系、うそ系、いい系、文末系、繰り返し系」を立て、「繰り返し系」以外では特定の応答表現があることを言及している。

吉田他(2009)は表層形式に基づき、次の表2に示すように6種類のものをあいづち表現として認定している。表2のうち(4)と(5)は発話に応じて応答表現の語句が定まるため特定の語句を指さないが、「あいづち表現」として(1)(2)の感動詞と、(3)(5)の感動詞以外の語句があるということを論じている。

表2 表層形式に基づいたあいづち表現(吉田他 2009)

- | |
|---|
| <p>(1) 応答系感動詞 承認や受容を示す感動詞による反応
 【例】 ああ うん ええ おお はあ はい ふん</p> <p>(2) 感情表出系感動詞 驚き・感心や気づきを示す感動詞による反応
 【例】 あっ えっ おっ へえ</p> <p>(3) 語彙的応答 同意を示す慣用的表現による反応
 【例】 なるほど 確かに そう(ですね)</p> <p>(4) 繰り返し 他の話者の発話の一部、もしくは全体を繰り返す反応</p> <p>(5) 補完 発話されていない他者の発話の要素を予測し補うように発話する反応</p> <p>(6) 評価応答 他者の発話内容に対しての評価的語彙(主に形容詞・形容動詞)を用いた反応
 【例】 おもしろい(な) すごい こわ</p> |
|---|

2. 3 応答表現

森山(1989, 2015)は、感動詞や応答詞、それ以外の語句もひっくるめて「応答」とし、談話における応答表現というものを議論している。

森山(1989)では、応答を談話展開の標識としてとらえている。分類の論点をおおよそまとめたものを次の表3-1と表3-2に示す。

表3-1 応答の分類「態度表明系統」(森山 1989)

- | |
|--|
| <p>態度表明系統</p> <p>(1) 談話の促進・伝達の停止などを表示する「伝達自体に対する応答」
 【例】 うん ふん それで え?</p> <p>(2) 先行文が命令文や意志文である「策動文に対する応答」
 【例】 承諾系: はい ええ もちろん わかりました
 拒否系: いやだ ことわる できない</p> <p>(3) 先行文が認識的な伝達である「認識的文に対する応答」
 【例】 驚き: へええ ふーん 本当 あーそう やはり なるほど もっとも
 肯定: うん ふん もちろん その通り 本当本当 そうだ 全く</p> |
|--|

表 3-2 応答の分類「展開制御系統」(森山 1989)

展開制御系統
(1) 話し手聞き手関係を設定・確認するもの
【例】おい あのー
(2) 内容展開の積極的な方向づけをするもの
【例】さあ まあ いや あ、そうだ

森山(2015)では、新情報遭遇に対する反応の応答に焦点を当てて議論している。新情報遭遇に対する応答表現を次の表 4 に示すとおり、3 つに分類している。

表 4 新情報遭遇に対する応答表現の分類(森山 2015)

(1) 強化や懐疑はない「導入類」
【例】ふうん なるほど わかりました そうか ほんとう LHH
(2) 先行情報導入に対して確認や想定などの強化を伴う「強化類」
【例】あああ 本当だ ほんと LHH
(3) 情報導入に対して意外感を示す、懐疑的態度の場合もある「意外表示類」
【例】うそ 本当? はあ?

これまで、感動詞・応答詞の研究は数多くされてきた。たとえば、感動詞を対象とする最近の論考には須藤(2008)やウォン(2013)などの博士論文がある。これらには、感動詞に関わる先行研究が一通り取り上げられ、くわしく論じられている。しかし、感動詞や応答詞以外の応答表現に着目して論じた研究は、副詞「なるほど」を取り上げた土屋(2012)や、副詞の「もちろん」「たしかに」「なるほど」を取り上げた蓮沼(2018)などと、まだ少ないようである。

本稿では、森山(1989, 2015)や先にあげた吉田他(2009)のように、応答表現として感動詞や応答詞だけでなく、それ以外の語も積極的に取り上げる。特に、それ以外にどのような語があるのかをできるだけ網羅的に例示することを目指す。

3. CEJC モニター版に出現する感動詞

3. 1 感動詞の転記と形態論情報

CEJC モニター版で「感動詞」として得られる語は、転記の基準(臼田ほか 2018)と、短単位の形態論情報(小椋ほか 2011)の規定を経たものになる。

臼田ほか(2018)では転記の基本方針として、「発話内容はテキストで表現できる範囲で転記し、原則として漢字仮名交じりで表記する」「母音の延伸や発音エラーなどの会話で生じる現象は転記する対象を定め、各種タグを用いて表現する」などを示している。また、形態論情報を付与することで、転記テキスト自体に表記の揺れがあっても柔軟な検索が可能となるため、「表記の統一(例: 狐/きつね/キツネ)は行わない」と説明している。そして、感動詞の扱いについては、表記に迷うことが多いものであるため基準を定めている。

小椋ほか(2011)には、同一「語形」・別「語形」の判定、同一「語彙素」・別「語彙素」の判定、「語形」の定め方、「語彙素」の定め方が詳細に規定されている。

臼田ほか(2018)で述べられている感動詞の扱いについて、次の表 5 に示す。

表 5 感動詞の扱い（臼田ほか 2018）

(1) フィラー（定める形式 ¹ であり場つなぎ機能を有するもの） 平仮名で表記し、フィラーの前後にスペースを入れる。
【例】あ(ー) い(ー) う(ー) あのですね とね
(2) 感情表出系感動詞（驚いた時や落胆した時などに発する表現） 語彙を定めず原則として聞こえた通り表記する。外国語由来の感動詞は片仮名で表記し、それ以外は平仮名で表記する。
【例】えっ あーあ イエーイ オッケー ²
(3) 応答系感動詞・呼び掛け・掛け声 基本となる語形が想定可能な場合には、曖昧に発音されている場合でもその基本となる語形で転記する。促音および長音が挿入される場合には、派生の語形として「っ」「ー」を用いて表記する ³ 。基本となる語形が想定できない場合には聞こえた通りに転記する。
【例】はい ふーん いいや、 おい やあ、 えい そら

転記の基準や形態論情報付与の規定により、感動詞がどのように転記され、それらに対してどのような形態論情報が付与されるのか、「ああ」や「あー」を例に、次の表 6 に示す。

表 6 感動詞「ああ」「あー」の転記・形態論情報の付与例

no.	転記	語彙素読み	語彙素	語形	品詞	書字形	発音形出現形	発音
1	ああ	アア	ああ	アア	感動詞-一般	ああ	アー	アー
2	あー	アア	ああ	アア	感動詞-一般	あー	アー	アー
3	ああ	アア	ああ	アア	感動詞-一般	ああ	アー	ナー
4	あー	アア	ああ	アア	感動詞-一般	あー	アー	ナー
5	ああ	アア	ああ	アア	感動詞-一般	ああ	アー	アヤ
6	あー	アア	ああ	アア	感動詞-一般	あー	アー	ニャー
7	あー	アー	あー	アー	感動詞-フィラー	あー	アー	アー
8	あ	アー	あー	ア	感動詞-フィラー	あ	ア	ア

見出し語の形態論情報は三段の階層構造で付与される。右側三つの「書字形」「発音形出現形」「発音」が階層の一番下のレベルの情報になる。転記した同じ形が「書字形」である。転記する際に基本となる語形を想定した際の発音が「発音形出現形」である。曖昧な場合も含め、発音をできるだけそのまま文字化したものが「発音」である。表 6 では 3～6 が曖昧な発音を文字化した例に該当する。それらの一つ上のレベルで「語形」が付与される。表 6 の場合、1～6 の「感動詞-一般」の例は語形「アア」でまとめられる。「長音を示す母音、小書きの母音、長音符号の差異については、原則として母音の形を「語形」に当てる」の規

¹ ここではその一部のみ例示した。全体については、臼田ほか(2018, p.180)の表 1 を参照されたい。

² 現在は応答表現の用法のものも、すべて、「名詞」の品詞が付与されている。

³ 感動詞以外では、強調や言い淀みなどのために一時的に母音が引き延ばされた箇所には、「ー」ではなくタグ「%」が付与され、強調や言い淀みなどのために、一時的に音が詰まった箇所には、「っ」ではなくタグ「:」が付与される。

定によるものである。7 と 8 の「感動詞-フィラー」の例は、発音に応じて語形「アー」か「ア」が付与される。一番上は語彙素レベルである。1～6 の「感動詞-一般」の例は語彙素「ああ」、語彙素読み「アア」が付与され、7 と 8 の「感動詞-フィラー」の例は、二つの語形が一つの語彙素「あー」、語彙素読み「アー」にまとめられる。

なお、「感動詞-一般」と「感動詞-フィラー」のどちらにも語彙素「あ」は存在しない。「感動詞-フィラー」で「ア」と発音されるのは、表 6 の 8 に示したとおり、語彙素「あー」の下に語形「ア」である。「感動詞-一般」で「ア」と発音されているものは、語彙素「あっ」の下に語形「アッ」と「ア」が立ててあり、そのうちの「ア」の方で扱われている。これは、「1 音節で語末に促音のある形と促音のない形がある場合、促音のある形を「語彙素」とする」という規定によるものである。

3. 2 CEJC モニター版に出現する「感動詞-一般」

まだ対象を応答表現だけに絞らずに、CEJC モニター版に出現する「感動詞-一般」について、オンライン検索システム『中納言』を用いた頻度調査の結果を示す。表 7 に「語彙素」の上位 10 語（太字）の結果を「書字形」（細字）の内訳とともに示す。

表 7 CEJC モニター版に出現する「感動詞-一般」頻度上位 10 語（件）

感動詞	件数	感動詞	件数	感動詞	件数
うん	31066	はいー	1	ふんっ	2
うーん	5596	はい	3932	へえ	985
うん	25409	はいー	1	へ	10
うんっ	2	はいっ	10	へえ	12
うんー	58	いや	2152	へー	942
んーん	1	いやー	3	へえー	3
あっ	5085	いや	1579	へーえ	3
あ	3304	いやー	179	へーえー	4
あっ	1781	いやーん	1	へっ	11
ああ	5055	いやっ	10	んっ	902
ああ	731	や	318	ん	884
あー	4237	やー	61	んっ	7
ああー	38	やーん	1	んん	11
あーあ	37	えっ	1726	ええ	851
あーあー	8	え	1195	ええ	178
ああっ	2	えっ	531	えー	664
あーっ	2	ふん	1268	ええー	7
はい	4173	ふーん	1031	えーっ	2
はいー	229	ふん	235	合計	57729

表7より、「うん」の使用が非常に多いことがわかる。「はい」や「ええ」も多く、肯定系の語の使用が多いことがわかる。否定系は上位10語には「いや」しか上がらなかったが、表外となった「いいえ」は、書字形「いいえ」が14件、「いえ」が2件と少ない結果であった。「あっ」「ああ」の使用が多いことも目立つ点である。

「語彙素」の定め方に、「語末音の繰り返しが見られる場合、原則として繰り返しのない形を「語彙素」とする」「ただし、笑い声に相当する感動詞は、原則として3拍の形を「語彙素」とする」というものがあり、次の例が示されている。

【例】アラ／アララ／アラララララ→アラ【あら】

アチ／アチチ→アチ【あち】

【例】アハ／アハハ／アハハハハ→アハハ【あはは】

エヘ／エヘヘ／エヘヘヘヘ→エヘヘ【えへへ】

フフ／フフフ／フフフフフ→フフフ【ふふふ】

CEJC モニター版に出現する「感動詞-一般」のうち、繰り返しのある語の例を表8に示す。「語彙素」を太字で、その内訳の「書字形」を細字で示す。

表8 CEJC モニター版に出現する「感動詞-一般」繰り返しのある語の例（件）

感動詞	件数	感動詞	件数
あら	158	あはは	5
あーら	1	あーはっはっはっは	1
あーらららら	1	あーはは	1
あーららららー	1	あはは	3
あっらー	4	うはは	1
あら	114	うははははー	1
あらー	18	ははは	6
あらっ	3	はーっはっはっはっ	1
あらら	7	はっは	1
あららー	1	はっはっはっはっ	3
あららら	1	ははは	1
あらららら	5	ふふふ	2
あららららら	1	ふっふっふっふ	1
あららららららららららら	1	ふっふっふっふっふっふっふっふっふっふっ	1
おっと	16	ほほほ	6
おーっと	3	ほっほ	1
おーっとっと	1	ほっほっ	1
おっと	8	ほっほっほっ	1
おっとっとっと	1	ほっほほほ	1
おっとっとっとっと	1	ほほ	2
おっとっとっとっとっと	2		

3. 3 CEJC モニター版に出現する「感動詞一般」のうちの応答表現

CEJC モニター版に出現する「感動詞一般」のうち、応答表現の用法を持つとみなせるものを、見通しよく把握するために、大きく二つに分類し、その下で細分類する。

(1) 肯定・否定の反応を示す感動詞

はい系、ウン系、ウオ系、いい系、いいえ系

(2) 感情（驚き・感心・喜び・落胆など）の反応を示す感動詞

あーおーわー系、いーうーえー系、ア・イ・ウ・オ系、
カ行系、サ行系、ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ系、マ行系

細分類については、今後さらに検討を要するが、現段階ではできるだけ表層で分けようと試みている。しかしながら、(1)の「はい系」「いい系」「いいえ系」は意味で分類した方が見通しがよいと考え、この三つは意味による分類である。意味に基づく細分類をひらがな表記で、表層に基づく細分類をカタカナ表記で区別した。

また、(2)の「あーおーわー系」と「いーうーえー系」は、これらいずれかの一音が主となり伸びているものと、それ以外の区別をまず行っているものである。例えば、「あ」で始まるうち、「ああ」だけをそれ以外のものとに分けている。そして、比較的ポジティブな響き・用法が主になるものを「あーおーわー系」でまとめ、ネガティブな響き・用法が主になるものを「いーうーえー系」に分けている。主に表層に基づく分類であるが、二つに分けている点は意味分類であるため、ひらがな表記を用いる。

(2)の残りは、ポジティブやネガティブといった区別なく、表層だけで五十音図の行によって分けている。そのうち、ア行とハ行の語は多いため、一音ずつさらに分けている。また、「いや」と「やあ」はイヤ系としてまとめた。これらは表層による分類であるため、片仮名表記を用いる。

なお、感動詞によっては、(1)と(2)の両方の用法をもつものもある。発話例（発話者が交代しているところで改行している）で示す。たとえば、「ああ」は、#1では「(1) はい系」の該当例であり、#2は、「(2) あーおーわー系」の該当例である。このような語の場合、(1)にも(2)にも分類する。

- #1 会話 ID:T016_006a #伊東で返すんだから
#ああ#そうだね
#2 会話 ID:T009_010 #じゃあほんと少し
#ああ#おいしそう

表9 CEJC モニター版に出現する「(1) 肯定・否定の反応を示す感動詞」(件)

はい系	ああ	ええ	はあ	はい	ふん	へい	へえ	ほい	まあ	わあ
件数	5055	851	310	4173	1268	6	985	11	7	85
ウン系	ううん	うむ	うん	んっ	んー					
件数	135	1	31066	902	114					
ウオ系	うい	うす	おいっす	おす						
件数	9	1	1	1						
いい系	イエイ	うえい	うえい	やった	よし	よっしゃ	わあい			
件数	10	1	1	2	109	3	11			
いいえ系	いいえ	いえ	いや	さあ	やあ	んにゃ	否			
件数	14	66	2152	32	5	1	1			

表 10 CEJC モニター版に出現する「(2) 感情の反応を示す感動詞」 (件)

あーおー わー系	ああ	あっ	うあ	うわ	おお	おっ	おわ	わあ	わお	わわ	んあ	
件数	5055	5085	7	131	385	115	1	85	10	3	4	
いーうー えー系	いい	うう	うううう	ううん	うえー	うん	ええ	えっ	んっ	んー		
件数	2	50	5	135	7	31066	851	1726	902	114		
ア系	ああん	あう	あら	ありゃ	あれ	あわ	あん					
件数	35	5	158	3	562	1	12					
イヤ系	いや	やあ										
件数	2152	5										
ウ系	うえ	うお	うぎょ	うぐ	うげ							
件数	3	16	2	1	1							
オ系	おえ	おおい	おっと	おや	およ							
件数	2	4	16	1	1							
カ行系	かあ	かつ										
件数	2	2										
サ行系	しい	しえしえしえ	ししし									
件数	6	1		2								
ハ系	はあ	はーん	はう	はえ	はお	はしよ	はっ	ははあ	ははん	はへ	はや	はん
件数	310	7	3	2	1	1	22	4	1	1	1	11
ヒ系	ひい	ひえ	びえ	ひゃあ	ひよう							
件数	9	7	1	1	1							
フ系	ふ	ふう	ぶう	ふお	ふん							
件数	11	20	1	1	1268							
ヘ系	へえ											
件数	985											
ホ系	ほう	ほえ	ほっ	ほな	ほら	ほりゃ	ほれ					
件数	107	2	9	1	627	1	25					
マ行系	まあ	む	むむ	もう								
件数	7	1	1	2								

表 9 に、CEJC モニター版に出現する「(1) 肯定・否定の反応を示す感動詞」の内訳を、表 10 に、CEJC モニター版に出現する「(2) 感情の反応を示す感動詞」の内訳を示した。件数は、『中納言』による検索によって得られる件数である。件数に色がついている語は、(1) と (2) の両方に分類し、件数は分けていない。全用例の用法の確定は行っていないため、部分的な用例確認と可能性とで分類し、件数は出現件数全件を両方に記載している。

また、たとえば、(1) の「おす」や (2) の「やあ」は、挨拶にも用いられる語である。「おす」の 1 件は (1) の該当例であり、「やあ」の 5 件は (1) の該当例は 0、(2) の該当例は 2 件、挨拶の該当例が 3 件であったが、ここでは (1) と (2) の両方に 5 件を入れている。ほかにも、応答以外で、たとえば「掛け声」に該当する用法の件数も含んでいると考えられる。

表 9 や表 10 に、CEJC モニター版に出現する応答表現の用法を持つとみなせるものすべてを列挙しているため、従来の先行研究では言及されていなかったものもいくつかある。たとえば、(1) のウオ系としたものや、いい系の「イエイ」「うえい」「うえい」である。これらは出現件数はそう多くはないが、俗に体育会系や若者が使う返事などと言われるものである。

以下に、発話例を話者情報と、会話概要情報（主収録者の立場による）ともに示す。

- #3 会話 ID: T006_008a #お#じゃあ
#はいはいはい
#うーい#ういうい
(25-29 歳, 男性, 飲食店で中学時代の同級生と飲み会)
- #4 会話 ID: T016_007 #あの七キロ先アニマルキングダムだって
#おいつす#ありがとうございます
(40-44 歳, 男性, 旅行先で妻・息子 2 人・義母と車で移動)
- #5 会話 ID: T006_008a #じゃまあ
#うん
#おつす
#景気付けに
(25-29 歳, 男性, 飲食店で中学時代の同級生と飲み会)
- #6 会話 ID: T011_012 #黒豆買ってある
#イエーイ
(10-14 歳, 男性, 買い物のため夫・息子 2 人と車で移動)
- #7 会話 ID: C002_016 #あるよ#持ってるよ
#うん
#うえい
(40-44 歳, 男性, 旅行先で妻・息子 2 人・義母と車で移動)

#3～#7 は, すべて男性の発話例である。ここにあげなかった「イエイ」には女性発話もあったが, ほかはほぼ男性発話であった。

4. CEJC モニター版に出現する感動詞以外の応答表現

CEJC モニター版には, 感動詞以外の応答表現が多く認められる。本稿では, そのうちいわゆる文末表現が応答表現として用いられているものについて報告する。

ここでは, 次のような分類項目を立て, 発話の文頭に現れるものを応答表現とし, その条件で得られた該当例を集計する。

- (1) デス系
- (2) ダ・ダロウ系
- (3) ジャ・デハ系

まず、『中納言』にて, 語彙素「です」「だ」を検索し, そのうち文頭に出現する用例を抽出した。(1) の「デス系」には 1 例だけ「ですから」の用例があった。これはいわゆる接続表現の用例で別扱いしたいため, 今回の集計からは除いた。それ以外に抽出した該当例は, すべて一つの発話区切りの中に一つだけ現れていた語句であった。

語彙素「だ」については, 「だから」「だって」「なので」「なら」など, 接続表現ととらえるべきものの用例が多く混じる。それらも今回の集計からは除外した。また, 「と思う」と続く用例がいくつかあったが, これも今後別に扱いたいため, 今回の集計からは除外した。「じゃ」は書字形では「だ」である。しかし, 「ジャ系」は「ダ系」と区別して集計したいため, (1) から (3) はすべてキーとして出現している「書字形出現形」をもとに集計した。(2) と (3) の内訳は, 次の発話区切りがくるまでが一つの語句と認められるものはその形のまま抽出し, 次の発話区切りよりも前に語句の切れ目があると思われるものは, そこで人手で区切ったものを抽出した。

該当用例を集計した結果を表 11 に示す。太字が「出現書字形」であり、内訳の細字が発話か任意の区切りまで連結させた出現語句である。

表 11 CEJC モニター版に出現するいわゆる文末表現による応答表現の該当例 (件)

文末表現：デス系	件数	文末表現：ダ・ダロウ系	件数	文末表現：ジャ・デハ系	件数
す	1	だ (語彙素「だ」の一部)	79	じゃ (語彙素「だ」の一部)	50
す	1	だ	2	じゃいい	1
っす	2	だし	2	じゃいいです	2
っすね	2	だしね	1	じゃいいよ	2
でし	1	だっけ	3	じゃいっか	2
でした	1	だと	2	じゃない	10
でしょ	21	だとしたら	2	じゃないかな	2
でしょ	20	だね	14	じゃないけど	1
でしょでしょ	1	だもんだから	2	じゃないし	1
でしょう	17	だもんね	1	じゃないでしょう	1
でしょう	15	だよ	3	じゃないの	4
でしょうね	2	だよね	46	じゃないのかな	1
です	54	だよねだよね	1	じゃないや	2
です	7	だっ (語彙素「だ」の一部)	11	じゃないよね	2
ですか	3	だった	1	じゃないんだ	2
ですけど	2	だったっけ	1	じゃなくて	16
ですって	1	だったね	1	じゃよかったね	1
ですです	2	だったもんねだったもんね	1	では (語彙素「だ」の一部)	2
ですね	11	だったよ	1	ではないんだ	1
ですねですね	1	だったよね	2	ではなくて	1
ですもん	1	だったり	1		
ですよな	1	だったりね	2		
ですよね	24	だったんだけどね	1		
ですよねとか	1	だろう	5		
		だろうな	1		
		だろうね	4		

表 11 より、「デス系」では「でしょ」「でしょう」「ですね」「ですよね」が多く、「ダ・ダロウ」系では「だね」「だよね」が多く、「ジャ・デハ系」では「じゃない」「じゃなくて」が多いことがわかる。また実際にはいろいろな形で現れていることもわかる。

以下、発話例を話者情報、会話概要情報 (主収録者の立場による) とともに示す。

- #8 会話 ID: T006_004 #ちょっと気になってる
#っすね
(25-29 歳, 男性, 飲食店で大学の先生・後輩 2 人と授業の打上げ)
- #9 会話 ID: C002_016 #見る目あるってゆっとう
#でしょ
(35-39 歳, 女性, 喫茶店で友人 2 人と食後のお茶をしながら)
- #10 会話 ID: C002_016 #入院したからでしょ#入ってる
#だっけ
(85-89 歳, 女性, 福祉施設にいる母を訪問し母の部屋で雑談)
- #11 会話 ID: C002_016 #人にあげてるんです
#だよね#そうだよね
(55-59 歳, 女性, 喫茶店で友人 2 人と食後のお茶をしながら)

- #12 会話 ID: T011_007 #抹茶ソースみたいなやつ
 #うん
 #ふーん
 #だった
 (40-44 歳, 女性, 飲食店で長男の学校のママ友 2 人と雑談)
- #13 会話 ID: T003_021 #それ訴えりゃ勝てんじゃん
 #だろーね
 (35-39 歳, 女性, 子供の幼稚園時代のママ友 4 人と友人宅で昼食会)
- #14 会話 ID: C002_016 #この値段ならきつと旧館だよ
 #そうかな
 #じゃない#こんなお安くして
 (35-39 歳, 女性, 飲食店で元同僚である友人と旅行の相談)

#8～#14 まで挙げた例のうち, #12 は, 「抹茶ソースみたいなやつ」と発言した話者が, 二人の話者の「うん」「ふーん」の後で「だった」と発話している例である。冒頭で応答表現の定義として「相手の発話に応じ, 何らかの反応を返す表現」と述べたが「自身の発話に応じ」というものも, 広く応答表現に入れて考えると良さそうである。その観点からみると, #14 は, 相手に応じているとともに, 自身にも応じている表現ともとらえられる。ただし, 次の#15 の発話のように, 別話者の発話をはさまず, 自身が続けて発話している場合はどうであろうか。

- #15 会話 ID: T004_005b #イタリアレストラン
 #あああああ#あの和田の#じゃなくて
 #うん。
 (65-69 歳, 女性, 町会役員の自宅にて役員 3 人と会計監査後の慰労会)

今回, #15 のようなものも文頭に出現しているゆえに応答表現として集計しているが, 発話区切りが単なる間であり, 前の発話の文末表現と考えられる場合は, 応答表現とは別にすべきかもしれない。今後さらに検討したい。

5. おわりに

はじめに, オンライン検索システム『中納言』で公開されている『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に出現する感動詞が, どのように認定されている語であるかについて報告した。感動詞全般にわたっての上位 10 語とその出現件数を示した。

次に, 応答表現用法があるにとらえた感動詞を対象に, 主に表層の形式を手掛かりに, (1) 肯定・否定の反応を示す感動詞と, (2) 感情(驚き・感心・喜び・落胆など)の反応を示す感動詞の二つに分類して, 出現件数を集計した結果を報告した。今回列举した語には, 「うい」「うす」「おいっす」「おす」「イエイ」「うえい」「うえい」など, 従来の先行研究では言及されていなかった表現が得られたことを報告した。

さらに, 感動詞以外の応答表現として今回はいわゆる文末表現が応答表現として用いられているものから(1)デス系, (2)ダ・ダロウ系, (3)ジャ・デハ系の三つを取り上げ, 発話の文頭に出現することを手掛かりにして抽出し, 集計した。実際の日常会話では文末表現が応答表現として使用されている実態を明らかにした。

今後, ほかの文末表現や, いわゆる接続表現, 名詞, 副詞, 形容詞などの他品詞の語が応答表現として用いられている語についても抽出, 分析を進めていく予定でいる。

謝 辞

本研究は国立国語研究所の機関拠点型基幹研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」（プロジェクトリーダー：小磯花絵）の研究成果を報告したものです。

文 献

- ウォン ティ ビック リエン(2013)『若年層における感動詞の動態研究』（博士論文）山口大学.
- 臼田泰如・川端良子・西川賢哉・石本祐一・小磯花絵(2018)『『日本語日常会話コーパス』における転記の基準と作成手法』『国立国語研究所論集』15, pp.177-193.
- 大浜るい子(2002)「相づち使用と対人関係」『広島大学日本語教育研究』12, 広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座, pp.1-9.
- 沖久雄(1993)「肯定応答詞と否定応答詞の体系」『日本語学』12(4), pp.58-67.
- 小木曾智信・中村 壮範(2014)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報アノテーション支援システムの設計・実装・運用』『自然言語処理』21(2), pp.301-332.
- 小椋秀樹・小磯花絵・富士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕(2011)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第4版（下）』国立国語研究所.
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉(2019)『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の設計と特徴』『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp.367-370.
- 須藤潤(2008)『音声的特徴から見た日本語感動詞の機能』（博士論文）大阪大学.
- 田窪行則・金水敏(1997)「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会（編）『文法と音声』くろしお出版, pp.257-279.
- 土屋菜穂子(2012)「OPI（Oral Proficiency Interview）に見られる聞き手の応答表現「なるほど」について」『青山語文』42, 青山学院大学日本文学会, pp.54-68.
- 蓮沼昭子(2018)「自然談話における副詞の応答用法—『もちろん』『たしかに』『なるほど』を例に—」『日本語日本文学』28, 創価大学日本語日本文学会, pp.1-26.
- 堀口純子(1988)「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64, pp.13-25.
- 森山卓郎(2015)「感動詞と応答」友定賢治（編）『感動詞の言語学』ひつじ書房, pp.53-81.
- 山崎誠・大村舞(2019)『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の語彙』『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp.1285-1288.
- 吉田奈央・高梨克也・伝康晴(2009)「対話におけるあいづち表現の認定とその問題点について」『言語処理学会第15回年次大会発表論文集』pp.430-433.

関連 URL

- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」
<http://pj.ninjal.ac.jp/conversation/>
 『UniDic』
<https://unidic.ninjal.ac.jp/>
 コーパス検索アプリケーション『中納言』
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
 全文検索システム『ひまわり』/『日本語日常会話コーパス』モニター公開版
<https://www2.ninjal.ac.jp/lrc/index.php?%C1%B4%CA%B8%B8%A1%BA%F7%A5%B7%A5%B9%A5%C6%A5%E0%A1%D8%A4%D2%A4%DE%A4%EF%A4%EA%A1%D9>